

地球科学輻合ゼミナール

(2008年度 後期 第2回)のご案内

Earthquake Rupturing in Fluid-Overpressured Crust
- Compressional Inversion Earthquakes
in Japan and New Zealand

Professor Richard H. Sibson
(Department of Geology, University of
Otago, New Zealand)

講演者と講演内容の紹介(嶋本利彦@広島大学):

Sibson先生は、長年「断層と地震」の研究で世界をリードしてきた方です。学振短期招聘研究者として10月9日から11月13日まで来日されました。講演では、応力場が逆転した地域で起こる地震の発生と特徴について講演をされます。東北から北陸地方にかけて一連の地震が起こっていますが、それらの地域では日本海拡大時に正断層が形成され、既存の正断層が現在圧縮応力場で再活動しています。高角度な正断層は圧縮応力場では動きやすい断層ではないので、副次的な断層が形成されて複雑な断層系が形成され、また動きにくい断層を動かすには流体の役割が重要であるという議論を展開されます。なお、Sibson教授は今回の訪問中に一連の地震を震源域を回って地質を把握し、地震のデータなどを総合して圧縮インバージョン場で起こる地震の特徴を整理したいそうです。

10月15日(水) 午後4:30~午後6:00

場所: 理学研究科6号館 201号室